

なごやぬいぐるみ病院 8 月実施報告書

文責：若松真野

連絡先：mano.wakamatsu@gmail.com

●実施概要

- ・実施日：2013 年 8 月 13 日
- ・活動場所：ポピンズアフタースクール
- ・当日参加した学生の人数：22 人
- ・子どもの人数：1 年生 6 人、2 年生 5 人、3 年生 2 人、4 年生 1 人、6 年生 1 人
- ・活動時間：10：30～12：00
- ・活動内容：お医者さんごっこ、保健教育
- ・当日の流れ（園児の動き、学生の動きが分かるように）

時間	行ったこと
9：00	集合、劇・アイスブレイキング最終確認
10：00	移動
10：15	学童到着、設営
10：30	挨拶、アイスブレイキング
10：40	子供たちの移動
10：45	問診①
11：10	子供たちの移動
11：15	問診②
11：40	片づけ開始
12：00	撤収
13：00	反省会
15：00	解散

●準備について

- ・今回の準備に向けて初めて MTG を行った日：7 月 12 日
- ・準備に来た学生の人数：1 日平均 7 人
- ・当日までの準備の日程・内容

日程	話し合ったこと、準備したもの
7 月 12 日	学童打ち合わせ
7 月 28 日	第一回学童実施 MTG
7 月 31 日	第二回学童実施 MTG
8 月 4 日	学童実施準備（～12 日）
8 月 8 日	学童さんへの打ち合わせ
8 月 13 日	当日

●診察（おいしゃさんごっこ）について

前回からの改善点・工夫した点

- ・子供たちの年齢に幅があったので、6年生の子は一人でお医者さんごっこを実施した。
- ・3年生・4年生の子供でペアを作ってもらい、問診のレベルを少し高めに設定した
- ・6年生の子供の問診のレベルも少し高めに設定した。

今回の実施を受けての反省点と、それに対する改善策

- ・当日、3年生の子が一人増えたため、問診ブースを一つ増やした。この時に問診のレベルは低めのほうで実施したが、少し物足りなさそうだった。中学年の子供には問診は高めのレベルで実施したほうが門属してもらえるのだと思う。
- ・子供たちの書く文字は大きいので、カルテの記入欄も大きめに設定するとよい
- ・問診が以外にも早く終わってしまうところがちらほらあり、問診が終わってからの対応を準備しておくべきだった

●保健教育について

- ・テーマ：睡眠
- ・テーマを選んだ理由

児童の先生方への事前アンケートで、「子供たちの生活習慣が親に合わせたものになっている（例：寝る時間が遅い）」とお話を聞き、まずは子供たちに睡眠の大切さを知ってもらい、夜しっかりと寝てもらえるようにしよう！と考えた

- ・形式：(劇) 紙芝居 カルタ 実験 その他 ()

・内容：最初に睡眠に関する劇を見てもらい、その後子供たちによい生活習慣を考えてもらうWSを行った。

12時までゲームをしていた小学3年生の子供の一日を見てもらった。

内容としては

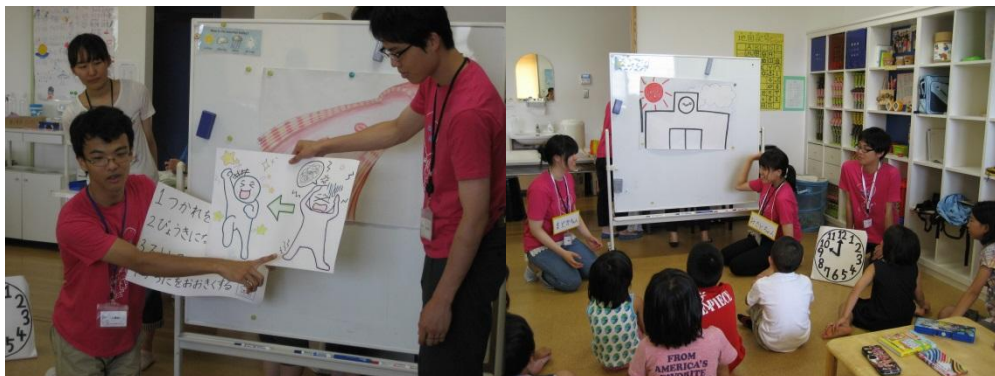
- ・夜更かしすると授業、遊びに集中できない
- ・睡眠には疲労回復効果がある
- ・免疫力を高める
- ・ストレス解消になる
- ・成長ホルモンの分泌を促す

ということを説明した

使ったもの（作成したのものも含む）

*できれば写真も貼り付けてください。

時計、背景3枚、紙芝居、白血球くん、バイキンくん、WSに使うシート3種類



・説明の際、注意した言葉や表現

1年生の子供から、6年生の子供まで幅が広がったので1年生の子供がわかるような説明を心掛けた

「体の中には、ばい菌と戦ってくれる白血球っていうのがいるんだけど、十分に寝ることができるよこの白血球が増えてくれるんだ。ちゃんと寝ないで生活していると、ばい菌と戦ってくれる白血球が減っちゃうから、病気になりやすくなっちゃうんだね。」

という部分の説明は特に悩んだ…

・園児の反応：

理解 理解してくれた 理解できないようだった わからない

楽しさ 楽しんでいた つまらなそうだった わからない

行動変容：保健教育を受けて、行動が変わった 変わらなかった わからない

良かった点

・劇+WSを行ったことで、1年生から6年生まで幅広く対応できる保健教育になった

- ・イラストがとてもかわいかった
- ・お土産として、睡眠の効果・寝るときの注意を子供たちに配布した

反省点

- ・ワークシートに「13 時」と書いたが、子供たちは午後 1 時だということがわからなかった
- ・子供たちが結構エキサイトしてしまったため、収集がつかなくなった部分があった。面倒見係をつけるとよかった。
- ・実際に行動変容に結び付いたかが分かりにくい…追跡調査も行えるとより良いのと思う

- ・同じテーマの保健教育をやる大学へのアドバイス

WS を行う際には、子供たちの年齢・人数構成に合わせて難易度を考えるとよいと思います！

睡眠の WS を考えるのは私たちもかなり悩みましたが、事例を見せる→どこがダメか考えてもらう→改善策を出してもらう（→実行してもらう！）というプロセスを利用すると考えやすくなるかな～と感じました。